

# REACT

2019年 12月号



国境なき医師団の医療活動は皆さまからの寄付で実現しています。



空爆で足を負傷し何度も手術を受けることになった少年を、手術前に励ます看護師の白川優子/イエメン © MSF

## 遺贈寄付—それは、優しい未来のつくりかた。

遺贈とは、「遺言」によって遺産の一部または全てを相続人以外の者や団体に無償で譲ることをいいます。そのうち、「寄付」として行われるものは「遺贈寄付」と呼ばれ、ご自分の思いを未来に託す新しい寄付の形です。例えば、遺言書において、一部または全ての財産の受取人として国境なき医師団日本を指定することで、医療・人道援助を通じた命を救う活動に遺産を役立てることができます。

それは、あなたの生きた証し。あなたらしい未来の創り方。家族の集まる年末年始、一緒に話してみませんか。

支援者の方からお手紙をいただきました。

数十年来、姉のように慕ってきた友人は、ご主人の転勤で海外に住んでいたこともあった。貧しい国々のことにも興味を持ち、寄付などを長くしてきました。そんな友人が、闘病の末、73歳のとき、がんで亡くなりました。自身の治療方針や身の回りの整理まで、自分の意思で考えて決めていました。私はお子さんがいなかった彼女から財産を相続したのですが、医療スタッフに最期まで感謝していて、子どもや女性に強い思いを持っていた友人の意思を尊重して、その一部を国境なき医師団に寄付することにいたしました。友人の気持ちが未来につながってほしいと思っています。(60代女性 M様)

資料請求・お問い合わせ

Tel: 03-5286-6430 (平日10:00-17:00)

遺贈寄付担当 / 荻野 Email: legacy@tokyo.msf.org

遺贈 国境なき医師団 検索

# 故郷を追われる人びとの命と暮らしを支える

地中海 海難救助活動がついに再開！  
助けを待つ人びとの元へ

薬があれば、助かる命があるから。アクセス・キャンペーン 20年の歩み  
レバノン 元気な産声が聞けることを喜びに。地元の助産師が活躍



特定非営利活動法人国境なき医師団日本

寄付や『REACT』に関するお問い合わせ

0120-999-199

(平日9:00~18:00 土日祝・2019/12/28~2020/1/5休 通話料無料)  
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階  
Tel: 03-5286-6123 (代表)

www.msf.or.jp

『REACT(リアクト)』は国境なき医師団(MSF)日本が発行するニュースレターです。MSFが活動現場で目撃する世界の人的危機と、命を救うための人道援助活動についてお伝えし、共に考えていただくための情報をお届けします。

国境なき医師団は、1971年にフランスで設立された、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機にひんした人びとの緊急医療援助を主目的とし、医師、看護師をはじめとする海外派遣スタッフと、現地スタッフ、事務局スタッフの合計約4万7000人が、世界70カ国以上で活動しています(2018年度)。



写真上／女の子を船上へ！ 他の遭難者も手助けしてくれる。 写真下／ゴムボートには大人だけでなく、妊娠した女性や付き添いのない子どもも多い。

地中海

# 海難救助活動をついに再開！ 助けを待つ人びとの元へ

活動の妨害を乗り越えて

下の地図の点線や矢印。これは長引く紛争や貧困、暴力などから逃れて、安全に暮らせる場所を目指して人びとが移動しているルートです。住み慣れた土地を離れ、他の国や地域に移動する「難民」や「国内避難民」は年々増加の一途をたどり、いまや約7080万人「1」に上ります。しかし、この移動にもさまざまな困難が伴います。女性や子どもが一人で移動し、途中で命の危険にさらされたり、移動先に安心して暮らせる家や食料、医療がなかったり……。それでも、故郷にいるよりはましなのです」と人びとは訴えます。今号では、故郷を追われる人びとを支えるために、国境なき医師団(MSF)が取り組んでいる代表的な活動をお伝えします。

# 故郷を追われる人びとの命と暮らしを支える

## 『REACT』2019.12 CONTENTS

- 特集
- 02 故郷を追われる人びとの命と暮らしを支える
- 地中海
- 03 海難救助活動をついに再開！助けを待つ人びとの元へ
- イラク
- 05 難民のクセイ・フセインさん 苦境を乗り越えて、新しい人生へ
- 06 薬があれば、助かる命があるから。アクセス・キャンペーン20年の歩み
- レバノン **IN FOCUS**
- 08 元気な産声が聞けることを喜びに。地元の助産師が活躍
- 最終回** スタッフが答えます！ 皆さまの声
- 09 支援者のひろば
- 10 MSFインフォメーション

裏表紙 遺贈のご案内  
別紙 国境なき医師団主催 イベントのご案内  
『REACT』アンケートのお願い

表紙：小さなボートで地中海を横断中、MSFに無事保護された9ヵ月の男子。スタッフもほっとした表情を見せる(2015年)



部のヨーロッパ諸国から、船籍剥奪などの妨害を受けたい活動は再開。

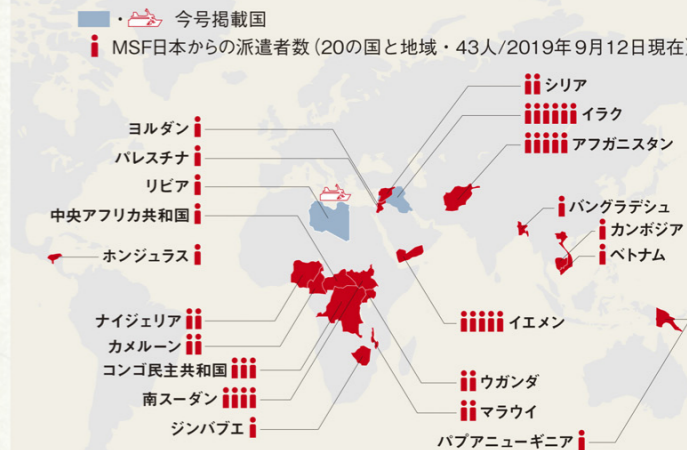
「武装勢力が村を襲って、家族が殺された」「リビアで奴隷のように強制労働をさせられた」。こう話すのは、今年8月にMSFが地中海で救助した人びとです。中東やアフリカ諸国からヨーロッパを目指し、中継地点のリビアから地中海を渡る人びとは依然として多くいます。しかし密航業者が手配した簡素なボートで広大な地中海を渡るには命の危険が伴います。2014年から昨年までに、1万8000人近くの人が海で命を落としました「2」。

2015年よりMSFは市民団体と協働して、地中海で人命救助に当たってきました。診察室や緊急治療室を備えた救助船を運航し、3年間で救出したのは8万人強。しかし昨年12月、葛藤の末、活動を一時停止しました。救助活動に反対を示す一部のヨーロッパ諸国から、船籍剥奪などの妨害を受けたい活動は再開。

約7080万人には「難民」や「国内避難民」、難民認定や法的保護を待つ「庇護(ひご)申請者」が含まれる。この他に、数多くの移民や自然災害の被災者も故郷を追われている。

2018年、戦闘や内戦が収束に向かい、故郷に帰れたのはわずか290万人ほど。しかしすぐに医療施設などの社会インフラが整うわけではなく、国際社会による支援の継続が必要。

シリア、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマー、ソマリア。世界の難民の約67%がこの5ヵ国から発生。最も多いのはシリアから。約670万人がいまも避難生活を送っている。



故郷を追われている人びとは、世界中にはどれくらいいるの？ [1]

いまや **約7080万人**

故郷には帰れているの？ [1]

帰郷できたのはたった **約290万人**

国外へ避難する人が多いのは？ [1]

第1位はシリア **約670万人**

### MSFが主に行っていることは？

✓ **暴力などで負った外傷のケア**

武装勢力に襲われたり、迫害を受けて暴力を受けたり、拉致や拘束されて拷問を受けたりなど、世界各地で外傷に苦しむ人びとにMSFは治療を行っている。

✓ **傷ついた人びとへのメンタルケア**

目の前で家族を失った、性暴力を受けた。そうした人びとに心理ケアを提供する他、長期的な避難生活を強いられ大きなストレスがかかっている人の支援も行う。

✓ **難民・避難民キャンプで感染症対応**

人びとがすし詰め状態で暮らすキャンプは、衛生状態が劣悪で感染症の流行が繰り返されている。治療の他、事前に防ぐため給排水の設備を整え、予防接種も行う。

✓ **海難捜索・救助活動**

地中海という移動ルートそのものが危険に満ちている場所では、まず何よりも「救命活動」が求められている。MSFは他の団体と協働し、海難捜索・救助活動を展開。

[1] UNHCR Global Trends 2018より [2] IOM発表数の累計  
地図はUNHCR発行のレポート「DESPERATE JOURNEYS JANUARY-DECEMBER 2018」を基に作成。



「誰もが、何かを目指す人」になれる。いつかはMSFで、心理ケアの担当を」

難民のクセイ・フセインさん(29歳) 苦境を乗り越えて、新しい人生へ

イラク・モスル市近郊で育ったクセイさんは、2006年にテロに巻き込まれ、鼻と頬、視力を失いました。絶望の淵にいたときに、ヨルダンのアンマンにあるMSFの再建外科病院へ。いまはアメリカで難民として新たな人生を送っています。彼を新しい人生へ突き動かしたものは？

アンマンで受けた手術は少なくとも35回。まぶたが上がるように治してもらい、この鼻も再建したものです。視力が戻らないことには打ちのめされましたが、アンマンで、負傷後の私に何ができるのかを見つけられました。MSFには心理療法の一環で患者が参加する活動があり、ある日の遠足で重傷者の人も楽しんでることに気づきました。それならば、と患者仲間を誘って、毎週末アンマン市内のいろいろな場所へ出掛けるように。たくさんの人と文化、多様性に出会いました。



昨年5月、8年半ぶりにモスルへ帰郷し、家族と再会したクセイさん。その後お母さまは亡くなった。



写真上/5歳の女の子にカウンセリングを行うスタッフ。写真中央/人びとは少し詰め状態で見守られている。写真下/食事は1日1回で炭水化物のみ。栄養ケアのためにMSFが配布したフルーツを手に喜ぶ子どもたち。



写真上/左の男性の妻はボートで移動中、残念ながら亡くなった。写真左/オーション・バイキング号で、妊娠した女性の対応に当たる助産師の小島穂奈。「お母さんも赤ちゃんも頑張っています!」

患者さんの声

「人間として扱われるヨーロッパへ行きたい」

オーション・バイキング号に救助されたスーダンから来た男性(16歳)

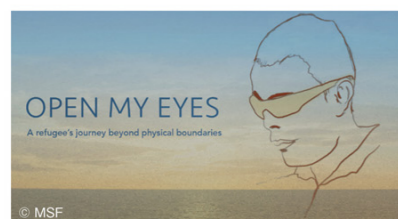
武装集団に父が殺され、スーダンを離れた。家族のためにヨーロッパで仕事を見つけて、7日かけてサハラ砂漠を移動しリビアに来ました。リビアから地中海渡航は2回試したけど失敗。タジョラ収容センターに連れて行かれましたが、ある日センターが襲撃された際に炎の中を何とか逃げたのです。人権が尊重されるヨーロッパへ、早く行きたい。

市民団体 SOS メディテラネと共同運航の救助船オーション・バイキング号で356人を保護しました。うち103人は18歳未満でした「3」。救助活動への妨害はいまも続いています。移民の上陸に否定的なヨーロッパ諸国の支援を受け、リビア沿岸警備隊が渡航中の人を捕らえてリビアに連れ戻しています。また渡航前に拘束される人も続出。彼らは共に収容センターで拘留されます。「人びとはひどい環境の中で先の見えない日々を過ごしています」と訴えるのは、昨年リビアで副プロジェクト・コーディネーターとして活動した中嶋秀昭です。「狭いスペースで数十人が一緒に過ごしています。シャワーも使えずトイレや毛布も不潔で、感染症も流行していました」。MSFは収容センター内で、拷問や暴力を受けた人の治療や、心理ケア、食料品配布などを実施。同時に人びとの保護に消極的なヨーロッパ諸国に支援を強く訴えています。

12月に東京でイベント開催!

「移動を強いられる人びと」をテーマに、人びとの置かれた環境とMSFの活動をお伝えするイベントを開催します。移動の道のりの厳しさを体感していただけるさまざまな展示を準備中です。海外派遣スタッフ・事務局スタッフが会場でお待ちしています。詳細は同封のご案内状でどうぞご確認ください!

クセイさんのインタビュー動画をご覧いただけます。



「この目を開いて」 https://www.youtube.com/watch?v=a2E1Z\_M77oA YouTubeサイトで 国境なき医師団 世界難民の日 検索

言葉にみんな拍手喝采だな。自慢の息子と思ってくれているかな。いまはテキサス大学で心理学を専攻し、博士号取得を目指しています。夢は心理療法士になり、アンマンに戻ってMSFで心理ケアを担当すること。患者だった私が専門スタッフとして凱旋したら、すごいでしょう? 全てのの人に、全世界にお伝えしたい。「何かを目指す人」であってほしいと。



チャド湖周辺 避難民キャンプで診療や、感染症対応などを行う。



シリア周辺国 避難民キャンプや病院でさまざまな角度から支援。



中米 メキシコ、ホンジュラスで外傷ケアや心理ケアを提供。



バングラデシュなど 少数民族ロヒンギャが迫害され国を脱出。劣悪な環境の難民キャンプで暮らす人びとを支援。

故郷を追われる人びとは世界中に。MSFの活動例

何が問題なの？

▶高い

薬やワクチンなどの開発企業が価格を高く設定したり、特許を独占して価格競争を阻んだりすることで、薬やワクチンを手しにくくなるだけでなく、金銭的負担が大きくなり長期的な使用も難しくなります。MSFはこうした企業に、価格引き下げの交渉を続けています。

▶開発されない

主に途上国の人びとがかかる結核やマラリア、顧みられない熱帯病などの新薬や診断ツールは、企業にとって利益が見込めないため開発が進んでいません。一方、既存のものは効果が低い、薬の場合は副作用が強いなどの弊害があり、患者が治療を続ける障害に。

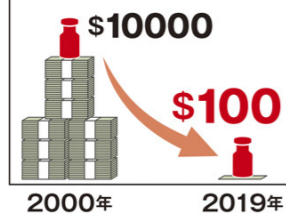
▶届けにくい

ワクチンの多くはセ氏2〜8度で温度管理を行わないと効果が薄れたり失われたりします。しかし活動地では低温輸送が難しく、コストもかかり、その分治療できる患者数は減ります。この点も考慮された開発をMSFは求めています。

MSFのチャレンジと実績

▶HIV薬が10年で100分の1の価格に

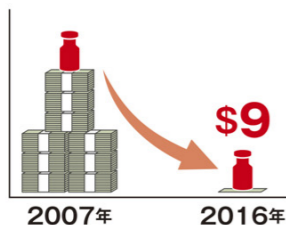
約20年前、HIV治療に使われる抗レトロウイルス薬の1人当たりの年間治療費は約108万円(1万ドル)\*もかかり、多くの人が命を



落としていました。しかしMSFをはじめとする団体の働き掛けによってジェネリック薬の生産が可能になり、現在は年間約1万800円(100ドル)に満たない価格に。

▶肺炎のワクチンが1人当たり9ドルに

肺炎は予防接種で防げる病気ですが、いまま毎年約100万人の子どもが命を落としています。製造業者のファイザー社とGSK社はワクチンを高価格に設定し、過去に480億円を売り上げていました。MSFは2007年に2社と価格引き下げの交渉を始め、2016年には41万筆以上の署名を集めて提出。ついに2社は人道援助団体には1人当たり9ドル(約972円)で提供すると発表しました。



\*1ドル=108円で計算。

最新情報はこちらをご覧ください。

アクセス・キャンペーン サイト

[https://www.msf.or.jp/news/access\\_campaign.html](https://www.msf.or.jp/news/access_campaign.html)

長くて過酷な結核治療が ついに終わりを迎えた  
in 南アフリカ



薬やワクチンを 手に入れられて、 病気を克服 できました!

毒ヘビにかまれた子ども、 薬があって治療できた  
in 南スウェーデン



肺炎の予防接種を 受けたからもう安心!  
in ギリシャ

- 1 新薬を手にする喜び。効果が上がり、治療時間も2分の1以下に。
- 2 薬の副作用に苦しんでいたフメザさん(左)。超多剤耐性結核が完治した喜びをスタッフと分かち合う。
- 3 アフリカではヘビ毒による死者が多い。アルクちゃん(右)は抗毒薬を使った治療で一命を取り留めた。
- 4 肺炎球菌ワクチンの価格が下がり、ギリシャの難民キャンプに暮らす子どもたちにも接種できた。



2014年、国連の世界保健総会でスピーチしたフメザさん。自分のように苦しむ患者を救うため、自己の経験を語り、思いを訴えた。

一命を取り留めた人がいる一方で、いまま途上国では命綱となる薬が入り手できない状況が続いています。必要な治療を受けられることは、本来は誰もが持つ基本的な権利。それがかなうよう、MSFは活動を続けます。

に薬の副作用で聴覚障害も表れ、大学生生活を諦めました。MSFでは何とか国外から高価な抗生物質を手に入れたところ奏功。フメザさんも過酷な治療を諦めず、ついに3年後、完治の日を迎えました。

HIV/エイズで何万人もの人びとが亡くなっていく……。20年前のアフリカで、MSFはこのような惨状を目の当たりにしていました。当時、治療薬はあまりに高価で、途上国の人びとは入手できなかったためです。こんな理不尽な理由で命を落とす人びとを減らしたい。その思いで1999年、ノーベル平和賞受賞の賞金を基に、MSFはアクセス・キャンペーンを立ち上げました。

主な活動は、多くの人が適切な治療を受けられるように社会に喚起していくことです。例えば署名活動やSNSを使って人びとの共感を得て、それを基に製薬会社に薬やワクチンの価格引き下げ交渉を行います。また国際会議などの場で、患者に必要な薬の研究開発を求めます。

「毎日注射を打たれ、20錠の薬を飲んで吐きそうに……。結核そのもの以上に治療がつかず。でもついに乗り越えました！」と涙ながらに語るのは、超多剤耐性結核が完治したフメザ・ティジェルさん(上の写真②)。超多剤耐性結核とは、結核の薬が効かない「薬剤耐性結核」の中でも深刻な病気で、過酷で高価な治療を必要とします。

アクセス・キャンペーンの重点的な取り組みの一つが、結核の診断・治療の改善です。結核はいまも年に約160万人の命を奪っています。しかし診断ツールや薬の開発が進まず、正しく診断されない人、薬の副作用で苦しむ人が絶えません。

フメザさんもその一人でした。公的機関で通常の結核治療を受けても回復せず、2010年にMSFの病院で薬剤耐性結核の治療を開始。程なく超多剤耐性結核と診断された上

C型肝炎の新薬で 副作用が楽になった  
in カンボジア



薬さえ手に入れば助かるのに、開発されない、高くて手に入らない、活動地へ届かない……。国境なき医師団(MSF)が活動地で抱えているこんな葛藤を乗り越えるために、20年続けている活動があります。それが「アクセス・キャンペーン」。薬や医薬品の入手を阻む壁を取り除くために、社会へ訴えていく活動です。病気を克服した左の人びとの笑顔も、この息の長い活動の成果の一つなのです。

薬があれば、助かる命があるから。  
アクセス・キャンペーン 20年の歩み

より良い治療を行うために

診断の遅れが命取りに



薬やワクチン、診断技術を すべての人に

アクセス・キャンペーン(旧名: 必須医薬品キャンペーン)では、薬だけでなく、ワクチンや診断ツールの入手の改善も図っています。病気を未然に防ぎ、また、患者の状態を迅速に正しく診断して適切な治療を行うことも、命を救う上でとても重要なのです。

**A** 「家族の気持ちや思いを伝えることも心苦しいです。それでも理解し、送り出してくれる家族に感謝です。とはいえ、活動地ではインターネットが使えないことが多いので、SNSなどでよく連絡を取り合っています」（佐藤）

「家族に特別なことは伝えていません。ただ、現場の状況など、分かっている範囲で時間をかけて話をするようにしています」（関）

**Q2** 「紛争地で危険にさらされながらも、命を救うために現場に立つ皆さんの勇気に感謝しています。皆さんは派遣先に向かうとき、家族に何か伝えますか？」（Bさん）

**A** 「最初は、勢い、だったと思います（笑）。ただ実際に現場へ行き、患者さんたちの顔を見ると、それは、遠い異国の出来事ではなく、自分の目の前の出来事になるのです。医師として仕事をやる上では、日本と国境なき医師団の現場とで大きな違いはありません。自分はまだ、目の前の仕事をしているだけ、という感覚なのだと思います」（関）

**Q1** 「皆さんの活動には本当に敬意を表したい。実際の現場での仕事はきれいごとで頑張れることではなく、大変でしょう。その背中を押すものは何なのでしょう？」（Aさん）

**MSFスタッフが答えます！  
皆さまの声**

最終回

「ACT!」で過去3回にわたってお届けしてきたこの連載。最終回では、MSFに参加する際の思いについて海外派遣スタッフの3名が答えます。

**私たちが答えます！**



※質問者のお名前は匿名にしています。

**チーム 国境なき医師団**

採用サイトをぜひご覧ください！  
[https://www.msf.or.jp/team\\_msf/](https://www.msf.or.jp/team_msf/)

MSFは、海外派遣スタッフだけでなく、事務局スタッフやボランティアの募集も行っています。こちらの採用サイトでは募集内容のほか、スタッフのインタビューもご紹介。ご支援者から、海外派遣スタッフになった人もいます。皆さまからのご応募をお待ちしております！

**A** 「MSFの現場スタッフの半数近くが、医師や看護師ではない非医療従事者で構成されています。ぜひ採用サイト（詳しくは左）で、募集職種をチェックしてみてください。また、活動地に行かなくても、私たちの活動を広めてくださったたり、スタッフの応援をしてくださったりすることも、私たちの大きな励みになります。ぜひ、できる範囲で参加していただけたらうれしいです」（白川）

◆最終回までお読みいただき、ありがとうございました！

国境なき医師団  
**支援者のひろば**

いつもMSFへのご支援を誠にありがとうございます。スタッフ一同、いつも皆さまの声に大きな励ましを頂いております。このコーナーでは、皆さまからの温かなお声をご紹介します。

いしむら よしえ  
東京都 石村 淑江様 (56歳)

毎月の寄付をするようになって約3年。きっかけは、駅前行われていたMSFの街頭キャンペーンで、栄養失調の子どもたちが食べている栄養治療食（RUTF）※を手のひらに載せられたときでした。実は私はその数年前にがんを患い、普通の食事を取れない時期がありました。その際、唯一口に入れられたのが、これに似た栄養治療食でした。自分の命がそれでつながった経験があるので、RUTFを活動地に届けられれば多くの小さな子どもたちの命が助かるはず、そう強く感じたのです。

世界中が少しでも幸せな方向に進んでいこう、日々頑張っている皆さんと一緒に、私もできる範囲での貢献をしていきたい。そして、皆さんへの応援も続けていきたいと思っています。

※栄養価が高く、調理しなくてもすぐに食べられ、長期保存も可能という特徴があり、活動地の栄養治療に用いられている。ピーナツバターのような形状になっている。

🚩 現地の子どもたちに思いを寄せるメッセージをありがとうございます。街頭キャンペーンのブースにもお越しいただき大変うれしいです！ 今後も見掛けられたら、ぜひお立ち寄りください。

**街頭キャンペーンを実施しています**



ご支援の輪を広げる「街頭キャンペーン」は首都圏と関西、福岡などの駅前や商業施設などで実施中です！

**あなたの思い、  
私たちに教えてください**

皆さまがMSFにご支援を始めたきっかけやご支援に対する思いなどを、このコーナーでご紹介になりませんか？  
①お名前 ②お電話番号 ③ご住所 ④メールアドレス ⑤メッセージ をお書きの上、下記の宛先にお送りください。掲載させていただく場合、事前に事務局よりご連絡を差し上げます。お待ちしております！

※同封の振込用紙に掲載の個人情報の取り扱いについてご一読の上、お送りください。

宛先 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階  
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本「REACT 支援者のひろば」係

ACTIVITY NEWS  
**IN FOCUS**  
レバノン  
Lebanon



**元気な産声が聞けることを喜びに——。地元の助産師が、お母さん一人一人のサポートで活躍**

今日もまた、元気な産声が上がりました！

ここは、レバノンの首都ベイルート。国境なき医師団（MSF）は、パレスチナやシリアから逃れてきた人びとが暮らす難民キャンプと大学病院で、妊婦さんへの援助を提供しています。

活躍するのは、現地スタッフの助産師たちです。産前から産後まで、また時には家族計画について女性たちの相談に乗り、不安を取り除きます。さらに、帝王切開が主流のレバノンで、できるだけ自然分娩を促すのも役割の一つ。不必要な医療行為が減り、お母さんたちの満足度も上がっています。

妊娠・出産という素晴らしい時間に立ち会えること。これがスタッフの誇りとなっています。

（写真上）助産師のサポートを受けて無事に出産を終え、娘のルナを見つめるマナル。「MSFのセンターでは2度目の出産です。以前もとてもよくしてくれたし、無料だったから」。（写真中央）出産前、出産を楽にするための呼吸法などを助産師から教わるマナル（左）。（写真下）難民キャンプ内の診療所で働く助産師たち。後列左から時計回りに、リタ、モナ、ワファ、ヒンドウ、ジルナル、ナジバ。53歳になるモナは助産師歴30年。「どんなに疲れた妊婦さんがやって来て、まずは笑顔で迎えられるようにしています。母として、そして祖母として、女性たちを精神的にも支えたい」。



© Severine Sajous/MSF



© Severine Sajous/MSF



© Severine Sajous/MSF

## ▶ 寄付に関してのご案内

### ■ 寄付の税制優遇措置(寄付金控除)について

MSF日本への寄付は、弊団の領収書を添付し「確定申告」を行うことで寄付金控除の対象となります。

**「年末調整」では寄付金控除の申請は行えませんのでご注意ください。**

### ■ 領収書のお届けについて

「毎月の寄付」の領収書は1~12月分をまとめて、**2020年1月下旬までにお送りします**。「今回の寄付」の領収書はご希望に合わせて**その都度**、あるいは1年分をまとめて(既発行分は除く)**2020年1月下旬ごろにお送りします**。

詳しくはこちらをご確認ください。

**Web** <https://www.msf.or.jp/donate/ryosyu.html>

### ■ 2019年度の寄付受け付けについて

2019年11月以降のクレジットカードによる「今回の寄付」のお申し込みは、**2020年度(来年度)分の寄付となる場合があります**のでご了承ください。なお、ゆうちょ銀行へ2019年12月31日までに払い込み手続きが完了した寄付は、2019年度分の寄付となります。

### ■ 年末年始、問い合わせ窓口が休業します

**【休業期間】2019年12月28日(土)~2020年1月5日(日)**

**Tel** 0120-999-199 (通話料無料、平日9:00~18:00)

※年始は窓口が込み合う場合がございます。あらかじめご了承ください。

### ■ 「マイページ」をご活用ください!

公式サイト([www.msf.or.jp](http://www.msf.or.jp))右上の「ログイン」からお進みいただいた「マイページ」では、24時間いつでも寄付の申し込みをはじめ、領収書郵送先の住所変更や、寄付履歴の確認などが可能です。寄付金控除および領収書発行についてのご案内もしています。



© 木下綾乃

## ▶ 活動地のスタッフによる虐待や不適切な行動を減らすための取り組みについて

『REACT』2018年6月号にて、MSFの活動地における虐待、搾取、ハラスメントに関してご説明しました。これらを撲滅するため、MSFでは虐待を通報・処理する独自の制度を設け、再発防止と被害者の保護を図っています。またこの制度がきちんと周知され機能するよう、専任スタッフが活動地で説明会や研修を行っています。このたびは2018年度の結果を報告いたします。

2018年、活動地で医療・人道援助を届けたMSFスタッフの数は4万3000人余りでした。内部通報は356件あり、調査の結果、うち134件を虐待または不適切な行動と認めました(前年は83件)。また52人のスタッフを懲戒解雇し、認定した事案に関わった全員にその行為に応じた懲戒処分を下しました。

※2018年度の報告書はこちらからご覧ください。 <https://www.msf.or.jp/information/detail/msfj20190617.html>

内部通報の数、不正行為の数が前年度より増えたことは大変遺憾です。しかしMSFの内部通報制度への信頼が高まり、不正行為がより多く通報され、加害者に責任を取らせることにつながっていると考えられる点では、一歩前進だと受け止めています。

これからもこの問題に関する取り組みを進め、不正行為を撲滅できるよう、努力を続けてまいります。また透明性を持った報告書を弊団ウェブサイト\*に掲載いたします。

国境なき医師団日本  
事務局長

ジェレミー・ボダン

© Toru Yokota

## ▶ 「お宝エイド」を通じたご支援が、2000万円近くに。大切にに使わせていただきます。

昨年末にご案内をさせていただいた、ご家庭に眠る物品をご寄付いただく方法「お宝エイド」。こちらを通じて、延べ1900名以上の皆さまより2000万円近くのご支援をいただきました。本当にありがとうございました!

予想をはるかに超える反響をいただいたことで、領収書の送付に予定より時間がかかり、3ヵ月以上もお待たせした方もいらっしゃいました。この場を借りて、おわび申し上げます。

また、物品をお宝エイドにご郵送いただく際、温かなメッセージを添えてくださった方が多くいらっしゃいました。「家にある物を集めました。少しでもお役に立てば幸いです」「多少なりとも助けになればと思います、ずっと家にあった古い切手や書き損じはがきなどを送らせていただきます」などのメッセージに、スタッフ一同大変励まされました。「お宝エイド」は今後も受け付けています。年末の大掃除の機会などに、引き続きご支援をお願い申し上げます。

「お宝エイド」からの多くのご支援、ありがとうございました!

ご寄付額 **1911万5955円**

ご支援者数 **延べ1933名**

※2018年11月~2019年7月累計

このお知らせを昨年末のニュースレターに同封させていただきました。同情報は下記のURLでご覧いただけます。



### 「お宝エイド」って?

家に眠る「お宝」でNPO法人などに寄付するサービスです。物品を「お宝エイド」に送ると査定が行われ、その額に10%乗せた額が「お宝エイド」を通じて指定した支援団体に送られます。支援先の団体は約140団体あり、昨年MSFも参加しました。



金・貴金属、切手、はがき・年賀状、ブランド品・時計など、さまざまなものを受け付けています。詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください。

### 「お宝エイド」を通じたMSFへのご支援は、今後も受け付けています。

詳しくはこちら <https://www.msf.or.jp/donate/other/files/otakara.pdf>



お問い合わせ先 **お宝エイド受付センター**  
**03-6265-7595** (10:30~19:00、年中無休)

## ▶ itouseiこうさんの新刊、好評発売中!

世界各地でMSF取材してきた作家・クリエイターのitouseiこうさんによる新書が出版されました。活動を陰で支える非医療スタッフや、寄付金に込められた思いなど、新たな発見に触れ、MSFになろう!と呼び掛けてくださっています。



『「国境なき医師団」を見に行く』に続き、今度は新書で『「国境なき医師団になろう!」』という本を出すことになりました。前著よりも実用的というか、組織の把握に適しているのではないかと思います。ではなぜ「実用的」にしたかと言うと、タイトル通り今回は「あなたもMSFの一員になれるんですよ!」といわばリクルートするような気持ちで一冊作りました。今回はMSF日本も追加取材しています。さまざまな日本のメンバーの言葉を読んで、ぜひあなたも人道主義にご興味をお持ちください!

itouseiこう

「国境なき医師団」になろう!  
itouseiこう



『「国境なき医師団」になろう!』  
itouseiこう著  
定価: 本体900円(税別)  
講談社現代新書